

和歌山県知事指定郷土伝統工芸品

きしゅうこうやくみこざいく

紀州高野組子細工

平成22年指定 / 指定された地域(橋本市、かつらぎ町、九度山町、高野町)

伝統の幾何学紋様にさらなる進化

平安時代の弘仁10年(819)、標高約900mの高野山の山上に、中国から日本に初めて真言密教を伝えた弘法大師が、修禅道場を開創しました。その御山のふもとで受け継がれてきた伝統工芸品が「紀州高野組子細工」。もともとは鎌倉時代に生まれた装飾技法で、江戸時代に高野山の寺院建立の際に、京都より招いた建具職人が、この地に伝えた。単純な幾何学紋様から山形、波状表現など新しい技術が編み出されてきました。



池田清吉建具
● 紀州高野組子細工師
池田 秀峯さん

昭和21年生まれ、橋本市出身。障子や板戸など日本家屋の建具を、紀州高野組子細工と合わせて手掛ける池田清吉建具の2代目。まずは建具職人として22歳から修業。家を出て親方について幅広く技術を学びます。29歳で組子細工の世界へ。先代の父について伝統の技を受け継ぎ、また独自に編み出したきのくに・ちぎれはめ込め技法で、組子細工の新しい表現方法を模索。組子細工で世界を目指します。

～きのくに・ちぎれはめ込め技法について～

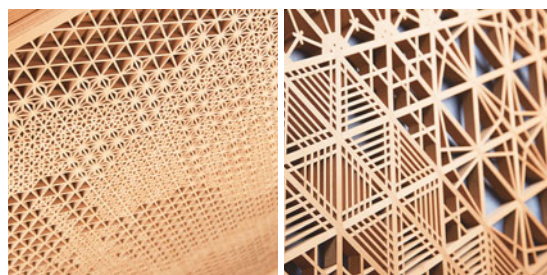
私は素材を生かした美的表現方法のひとつとして、きのくに・ちぎれはめ込め技法を編み出しました。木片の組み合わせによる不思議な表情を楽しみ、制作しています。

高野山のために組子職人来県

高野山に組子細工が伝わったのは江戸時代。山内の寺院のために、京都から腕利きの組子職人が招かれました。そもそも組子とは、釘などを使わずに細かく割った木材を手作業で組み合わせ、さまざまな紋様を編み込んでいく伝統的な装飾技法。三角形や菱形など単純な幾何学紋様が特徴とされています。高野山で発展した技術は、この幾何学紋様に、山形や波状の表現をあしらって紋様に変化をつけたもの。「紀州高野組子細工」と呼ばれるようになり、高野六木(マツ、モミ、ツガ、スギ、ヒノキ、コウヤマキ)を中心に、さまざまな木材が用いられています。

表現に幅を広げる画期的な技法

昭和35年以降、組子に画期的な技法が誕生し、表現にさらなる幅がもたらされました。その技術を進化させたものが「きのくに・ちぎれはめ込め技法」。池田清吉建具の2代目であり、高野山に伝わり発展してきた紀州高野組子細工技術を先代の父より受け継いだ池田秀峯さんが、独自に編み出しました。3本の薄い木材を正確に組み合わせると正三角形を作る「三ツ組手」により、幾何学紋様を組み上げ、さらにその中に材質や濃淡の異なる微細な木片を組み入れることで、紋様ではなく、人や風景など複雑な絵柄を描き出すことに成功しました。この技法の独自性と芸術性が高く評価されています。



最小1mmの木片で迫力の大作

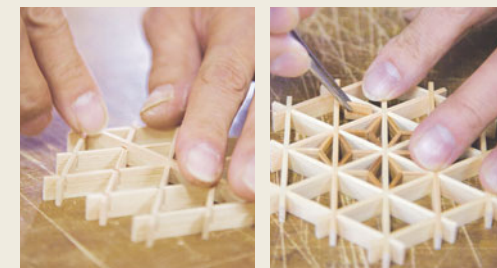
日本の家を飾る欄間や障子、額や衝立などに、美しい絵紋様を表す紀州高野組子細工。「従来の組子は建具技術として、意匠を凝らしたものでしたが、表現に制限がありました。組子細工の伝統的な工芸品の価値にもっと自由な芸術性を加えたいと思ったのがきっかけです。」と池田さん。きのくに・ちぎれはめ込め技法の木片は、最小限の薄さ1mm。組子の幾何学紋様と、木片の色を細かく使い分けることで、絵画のような迫力のある色調を表現することができます。大作であれば完成までに数年かかります。しかし、簡単な構図なら誰もがパズル感覚で組み上げることができ、技術継承の新たな可能性を広げています。

【紀州高野組子細工の制作工程】



強く光沢があって加工しやすい高野六木。丸太や太い材を一定の板に割り製材。さらに昇降盤を使って板を目的の寸法に小割りします。

自家製型台を使ったクテ取り。仕上げた材と材が組み合うように力キ取り。キャンバスとなる部材と幾何学紋様の部材を作ります。

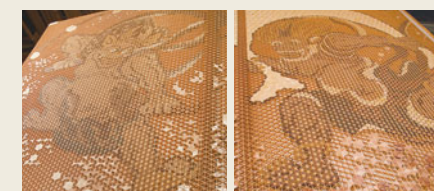


素地組みは、制作する寸法のキャンバスづくりです。用意した部材を一つ一つ入れ込みます。仮組みを使って、柄を編み込む枠を組み上げていきます。

キャンバスに絵を合わせ、木片の棧を一つ一つ入れ込みます。仮組みが完成したら絵の表現を見直し修正。本組みして固定、完成です。

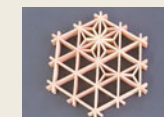
革新を生み出すことへの挑戦

俵屋宗達の代表作でもある風神雷神を、紀州高野組子細工で表現。きのくに・ちぎれはめ込め技法を用い、整然と配置された木片の集合のみが作り上げる紋様が、見る者を圧倒する存在感を放っています。現在、完成まであと少しというところまでできています。紀州高野組子細工を後世に継承するための渾身の作品です。



魅力を伝え、広げることへの挑戦

現在、商工会議所や小学校などで、地域の方や、観光客向けに組子体験教室を開催しています。「体験を通して、伝統的な組子細工の魅力を感じただけならば、これ以上の喜びはありません。」さらに、「国内にとどまらず、世界にも積極的に飛び出し、組子文化を広げたいと思います」と池田さん。



橋本商工会議所
和歌山県橋本市市島1-3-18
☎0736-32-0004
(組子体験教室についてとお尋ねください)